



2020年
(令和2年)
1月号
Vol. 2

枚方市議会議員 奥野みか

すべての人々が、「今」を輝いて
生きていける社会をつくる

- 奥野みかの活動報告(トピックス)
- 奥野みかの考え
- 奥野みかの議会質問(令和元年 12月定例会月議会一般質問)
- 奥野みかのホームページ・フェイスブックの案内

奥野みかの活動報告(トピックス) ～ 毎日元気にかけまわっています！

総合文化芸術センター建設現場を視察



12月24日、新町2丁目のラポールひらかたの北側に建設中の総合文化芸術センターの工事現場を視察しました。地上階の工事段階に入っていたので、柱が立ち始めていて、建設が進んでいることを実感しました。

現在、工期の約半分が過ぎ、約30%が出来上がっています。2021(令和3年)3月に完成予定で、新しい施設のオープンは同年9月上旬、一般貸出開始は10月上旬の

予定です。また、現在のメセナ枚方会館は、センターの「別館」として同年4月に先行オープンしますが、改修工事のため、同年10月から休館となり、2022(令和4)年4月に再オープンする予定となっています。

枚方ビオルネ前で街頭報告



立憲民主党枚方市支部では、毎月27日に街頭宣伝活動を続けています。昨年最後の街宣は、12月27日、枚方ビオルネ前でした。野村いくよ議員とともに、12月の議会報告を行いました。お声かけいただいた皆さん、ありがとうございました！

奥野みかの考え ～ 枚方市政で、今、大切だと考えていること

■安全で安心な暮らしの実現を

昨年も東日本を中心に台風による記録的な豪雨・暴風などの大きな自然災害が数多く発生しました。防災・減災機能を早急に強化することが必要です。また、DVや児童虐待などから命を守る体制もさらに強化しなければならないと考えています。

■20年先・30年先・50年先を見すえて

現在、枚方市の高齢化率は28%ですが、2039年には38.8%、85歳以上の方が12.8%になると推計されています。

まちづくりをはじめ、子育てや教育・一人ひとりの最



終段階での過ごし方などについても、先々のまちの姿をしっかりと想定し、今から課題を一つ一つ解決しなければならないと考えています。

■行財政改革は行政の質を高め、市民の生活を守るために

今、枚方市では仕事をどんどん外部に委託することや、上下水道料金の福祉減免の廃止などを「行財政改革」の名の下に進めています。しかし、今、本当に必要な改革は、厳しい財政状況の中でも市民の安全と暮らしを守ることができる質の高い行政と施策を確立することです。考えられるものから手あたり次第にコスト削減を進めることには大きな問題があると考えています。

奥野みかの議会質問 ～ 令和元年12月定例会月議会で一般質問を行いました

私は、12月18日の議会において、4項目の一般質問を行いました。裏面に質問のポイントを掲載しています。

※詳細はHP・Facebookに掲載しています ⇒

奥野みか ホームページ・フェイスブック

<https://okuno-mika.com>

<https://www.facebook.com/mika.okuno.338>



奥野みか

12月定例会議会 一般質問

質問1 / 人生の最終段階の過ごし方を選択できる環境の整備について

人生の最終段階で、生活の場である自宅や施設で穏やかに最期の時を迎えたいと願っていても、救急車で病院に運ばれてしまうと、結局、望まない治療を受けることになってしまいます。昨年の春、「病院で死を迎えたくない」という本人が望む形での看取りの苦労を経験し、家族として考えることも多くありましたので、今回、人生の最終段階に関わる課題について質問を行いました。

どのような最期を迎えたいかについて事前に考え決めること、慌てて救急車を呼ばなくてもいいようにすることなどを高齢者ご本人やご家族をはじめとする地域住民へ啓発すること。あわせて、その意思決定・意思表示を支援する介護従事者・医療従事者に対する周知・啓発を行うことを要望しました。そして、人生の最終段階の過ごし方を選択できる環境の整備のためには、枚方市医師会との強力な連携協力関係を是非とも早期に築いていただき、在宅での療養・看取りを支える在宅医療体制の整備に努めるとともに、救急搬送・救急医療の課題を含め、市として地域医療の推進に関する専門の部署を設け、支援体制を強化することを要望しました。

担当副市長からは、「在宅医療体制を構築するにあたっては、本人意思を尊重する観点から、様々な部署や関係機関と多角的に連携を図るように考えていきたい。」との答弁がありました。

質問2 / 外国人市民に対する支援について

6月の一般質問で、多文化共生施策の計画的な推進について要望しましたので、今回はその具体的な取り組みについて、次の4つの観点から質問を行いました。

- (1) 災害時の外国人支援について
- (2) 「やさしい日本語」の使用について
- (3) 外国人児童・生徒の教育保障について
- (4) 日本語教育の推進について

教育長からは、「教育委員会においては、国籍に関係なく、すべての子どもたちが生き生きと学ぶことができる学校づくりを努めていく。」との答弁がありました。

外国籍の子どもの不就学の問題や進学など関わる課題がクローズアップされています。子どもの最善の利益の確保の観点からも、「誰一人取り残さない」というSDGsの観点からも、このまちに住む外国につながる子どもの教育保障を強く求めました。



議場の質問は、六月に続く二度目。少しだけ、慣れました。

あわせて、「災害弱者」である外国人市民の特性を踏まえた防災・減災の啓発や災害時の対応、「やさしい日本語」の普及・啓発、社会教育事業としての基礎的・体系的な日本語教育の実施についても要望しました。

質問3 / 行財政改革の取り組みについて

(仮称)行財政改革プラン 2020(案)の中で廃止を検討されている上下水道料金の福祉減免制度の中には、所得制限を設けたひとり親世帯や生活困窮の高齢者世帯に対する減免も含まれています。最も公助が必要な市民、最も公的支援が必要な市民に対する福祉施策を廃止して財源を生み出し、それを何に使うというのでしょうか。福祉減免の見直しはすべきでないと、強く意見しました。

質問4 / 枚方市駅周辺再整備について
～安全・安心を高める施策について

枚方警察署の庁舎は築後約40年で老朽化して狭く、機能にも多くの課題があると思います。枚方市駅周辺再整備は50年先をも見通して進めなくてはならない事業なのに、市は枚方警察署の施設更新には何の考慮もせず、大阪府の土地に枚方市役所を移転しようとしています。

大阪府警本部や枚方警察署と意見交換や協議をする考えがないのか伏見市長に尋ねましたが、「必要な情報については、適宜、大阪府及び大阪府警察本部に対して提供する。」との答弁にとどまりました。

そこで、安全なまちのために大切な枚方警察署の現状や課題・将来の建替え方式やビジョンについて、市民の安全・安心を守る首長としての役割を果たすため、大阪府警本部や枚方警察署と必ず協議するよう求めました。



12月24日に開催された枚方寝屋川消防組合議会においても、急増する高齢者からの救急搬送や救急現場での対応の現状や課題について質問しました。